

## 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

### 1. 調査結果から見られる本校生徒の特徴

#### 【国語】

学力調査の平均正答率は、主として知識を問う「問題A」、主として活用する力を問う「問題B」とともに全国平均と同程度であった。

問題Aの「漢字を書く」「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」問題に成果が見られた。しかし、「楷書と行書」や「古典」の理解、問題Bの「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」「必要な情報を集めるための見通しをもつ」などの問題には課題が見られた。

#### 【数学】

問題Aの平均正答率は全国平均と同程度であった。「正負の計算」や「一次関数における変化の割合」を問う問題は高い正答率であった。しかし、「一次関数のグラフを基に式を表す」「度数分布表から、ある階級の相対度数を求める」問題などに課題が見られた。また、問題Bにおいては、「図形」「関数」「資料の活用」などの問題で課題が見られ、今後の対応が必要である。

#### 【共通】

国語・数学ともに「無回答率」が高く、ほとんどの問題で全国平均より高い結果であった。この結果を今年度の特徴として捉え、高校入試等に向けて意識改革を図るとともに、具体的な対策が必要に思われる。

#### 【学習・生活状況】

学校生活においては、「友達との約束を守っている」「学校で、友達に会うのは楽しい」「友達の話や意見を最後まで聞くことができる」など、友達関係の良さがうかがえる。また、「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」など、一定の社会性も育っている。一方、「友達の前で自分の考えや意見を発表する」「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」など、他者への表現や創造的な活動につながる考え方には苦手意識がある。

家庭においては、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」などの肯定率は、全国平均を大きく上回り、地域社会と深く関わろうとする姿勢、地域に支えられている様子が如実にうかがえた。しかし、「自分で計画を立てて勉強している」生徒は半数に満たず、「携帯電話やスマートフォンの使い方」「テレビやゲームをする時間」などの約束を守っている率も低かった。

## 2. 課題と今後の取り組み

### 【国語】

「漢字」の正答率が高く、無回答率も低かったことは、平素の取り組みの成果と考えられるため、今後も継続して取り組みたい。一方で、「わかりやすい語句を選択したり、伝えるために文章を工夫する」「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」などに対する肯定率の低さは、語彙力の不足が要因の一つであると考えられる。今後は、語句の言い換えや表現の仕方について、丁寧な文章の推敲を通して高めたい。また、新聞や図書などを読んで着目した語句や文を書きため、それを生かしながら詩歌を作るなど、「読む学習」を発展させながら思考力や表現力の獲得を図りたい。

### 【数学】

数学の専門用語の理解が不十分なため、問い自体が理解できずに無回答となる傾向がある。また、解答が記述式の場合、説明が不十分なため正解に至らないことがある。語句の意味や使い方を十分に理解させるとともに、個々の理解度に応じた様々な問題に対応することで、アプローチの仕方や解法に自信が持てるよう、学習方法を工夫したい。

### 【学習・生活状況】

学習塾等に通う生徒が多く、自分で計画を立てて家庭学習を行う習慣が定着していないように思われる。また、ゲームやスマホ等に没頭する傾向も見られる。将来の夢や目標を明確にし、短時間でも毎日主体的に学習に取り組む習慣を確立させたい。具体的には、家庭との連携を図りながら、課題の内容を検討し、生徒同士が相互に支えあい、効果的な活動が継続できるよう、個に応じた支援と励ましを行いたい。また、放課後やノー部活デー等を活用し、つまずきのある生徒への個別の対応を図り、学習意欲の向上と基礎学力の定着に取り組みたい。